

2004●図書館展示4月



メンデルスゾーン 13歳



モーツァルト 17歳



2004年度基礎ゼミ●レクチャーコンサート・オーケストラ参考資料展

# 大作曲家の十代



ビゼー 19歳



ロッシーニ 18歳



期間●4月5日-28日

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

---

# 大作曲家の十代

モーツァルト・ロッシーニ・メンデルスゾーン・ビゼー

2004年度基礎ゼミ・レクチャーコンサート・オーケストラ参考資料展

今年度はじめて行われる新入生基礎ゼミ・レクチャーコンサート・オーケストラ編では、「大作曲家の十代」と題して、4人の作曲家が十代のとき作曲した曲を取り上げます。

図書館では演奏曲の楽譜、CD、映像資料とともに、関係図書の中から若い頃の肖像、手紙、自筆譜などを選んで展示します。音楽室で見なれた顔と違う、初々しい作曲家の肖像をごらんください。あわせて4人の作曲家がお互いをどう見ていたか、エピソードを交えて紹介します。

---

## contents

モーツァルト	2
ロッシーニ	5
メンデルスゾーン	8
ビゼー	12

---

## Special Thanks

イタリア語翻訳につきましては本学講師、日向太郎先生に、また展示につきましては小学館のご協力をいただきました。記してお礼申し上げます。

企画：伊藤陽子

# Wolfgang Amadeus Mozart

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
1756年1月27日ザルツブルク生~1791年12月5日ウィーン没  
オーストリアの作曲家

## 17才の作品

### 《Exsultate, jubilate》

踊れ、喜べ、幸いなる魂よ (K. 165/158a 独唱モテット)

作曲年:1773年1月16日 作詞者:不明

作曲地:ミラノ 初演:1773年1月17日

第3回イタリア旅行中に書かれた、若い心が躍動する晴朗なモテット。17歳のモーツァルトは、言葉の配列を入れ替えた暗号文のような茶目っ気たっぷりの手紙で、姉のナンネルに報告している。「ぼくはプリモ・ウオーモのために、モテットを1曲つくらなくてはなりません。この曲は明日テアチノ修道会教会で演奏されます。」(1773年1月16日付) 楽曲は3楽章構成の、いわばソプラノ歌手のための協奏曲。

『モーツァルト全集』第10巻・作品解説 p.227 藤本一子(抜粋)。

## 展示楽譜

### 自筆譜のファクシミリ

#### 《踊れ、喜べ、幸いなる魂よ》部分

(踊れ、喜べ、幸いなる魂よ)より「アレルーヤ」の部分。

Christian Rudolf Riedel 編 フライツコップ・ウント・ヘルテル社 <請求記号 H30-829>

## モーツァルト新全集

ザルツブルクのモーツァルテウム国際財団 1955-91  
シリーズ1. 3巻 宗教的作品<請求記号 A1-293>

### ミニチュア・スコア

オイレンブルク社<請求記号 E5-167>

Afred Einstein 序文

### ピアノ伴奏ヴォーカル・スコア

ベーレンライター社<請求記号 F17-638>

Robert Munster 編 Eberhard Kraus ピアノ編曲

### オルガン伴奏ヴォーカル・スコア

ベーレンライター社 <請求記号 F17-975>

Robert Munster 編 Eberhard Kraus オルガン編曲

作曲家からみた作曲家  
ビゼー(1838-75)から  
ビゼーはモーツァルトを心から  
尊敬していた。友人ガラペー  
ルに宛てて書いている。「哲人  
先生、情熱的に書くように努  
めてください。無情冷酷を避け  
てください。そして、感覚の世  
界を大事にしてください。モー  
ツァルトのことを考え、絶えず  
彼から学んでください！太陽  
と愛よ万歳！」

『モーツァルト 366日』高橋英郎 p.68

## スコア

ブライトコップ・ウント・ヘルテル社 <請求記号 H30-829>

Christian Rudolf Riedel 編

(アレルレーヤ)部分の自筆譜ファクシミリを含む。

### 作曲家から見た作曲家

メンデルスゾーン(1809-47)から

少年時代、メンデルスゾーンが主に影響を受けたのはバッハの対位法の技法とモーツァルトの古典派様式であった。

当時、モーツァルトの作品の中で最も深く心を動かされたのは、交響曲「ジュピター」だった。メンデルスゾーンはこの曲の最終楽章に魅了され、1822年11月から12月にかけて弦楽シンフォニア第8番ニ長調を作曲した。

ニューグローヴ音楽大事典 18巻 p. 272

Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd..p 106

ユニバーサル映画「オーケストラの少女」主題歌 <請求記号 F11-616>

東京音楽書院 昭和13年

ヴェルディの〈乾杯の歌〉と共にモーツァルトの〈アレリア〉が収載されている。「最近にトキー「オーケストラの少女」の中でダイアナ・ダービンが唱った。編者はすでに数年前から手がけていたが、今回の出版のために新しく管弦楽総譜から編曲した。勿論我國で上梓されるのは、今回が初めてである。」編者[津川圭一] 昭和13年3月16日

## 肖像画

数多くのモーツァルトの肖像画が描かれ、後世に残された。それらのうちで実際にモーツァルトをモデルにした「真正」なものは、現在14点とされている。

その中から10代の肖像3点と、壮年期の1点を選んだ。



1770年1月 15歳を間近にひかえて

ヴェローナのモーツァルト

画家 サヴェーリオ・ダッラ・ローザ 油絵

所蔵:故アルフレッド・コルトー

1770年1月、最初のイタリア旅行中に訪れたヴェローナで、歓迎せめの多忙の日々のなかで描かれたもの。譜面台に置かれた楽譜は、少し前に作曲された「クラヴィーアのためのアレグロ ト長調」(K.72a 断片)。

「モーツァルト全集」第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」図4(解説共)

1770年 [15歳]

新発見のモーツァルトの肖像画

画家 チニャローリ? 油絵

所蔵: 個人蔵

「ヴェローナのモーツァルト」のヴァリエーションといわれ、19世紀なかばに作製さ

れたコピーによって知られた肖像画がある。そのコピーはザルツブルク・モーツァルテウム所蔵のものであるが、最近その原画が発見された。おそらくはチニャローリなるイタリア人画家の手になるこの肖像画は15歳になったばかりのモーツァルトを直接モデルとした「ヴェローナのモーツァルト」とまったく別の真正な肖像画である可能性が大きい。驚くべき美しい油絵である。

『モーツァルト全集』第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」 図16(解説共)

1773年春 17歳

ミラノのモーツァルト 細密画

画家未詳(マルティーン・クノラー作?)象牙製 直径5cm

所蔵: ザルツブルク・モーツァルテウム

1773年春、姉にお土産として贈られた象牙細密画

『モーツァルト全集』第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」 図14

『モーツァルト366日』新訂版 p.19より



1789年春 34歳

義兄ヨーゼフ・ランゲが描いたモーツァルト

ヨーゼフ・ランゲ作 油絵 (未完)

所蔵: ザルツブルク・モーツァルテウム

1780年にアロイジーア・ヴェーバーと結婚したランゲは、ブルク劇場の俳優であり、またアマチュア画家でもあった。以前はウィーン時代初期(1782年~83年)の作とされてきたが、現在では1789年4月16日付のドレスデンからのモーツァルトの手紙(コンスタンツェ宛)を根拠に、1789年春に描かれたとする見方が支配的になっている。



『モーツァルト全集』第1巻 特集「モーツァルトの肖像画」 図1(解説共)

作曲家から見た作曲家

ロッシーニ(1792-1868)から

モーツァルトが亡くなった翌年生まれたロッシーニは、後年モーツァルトのことを「青年期の憧れ 壮年期の絶望 老年期の慰め」と述べている。

ニューグローヴ音楽大事典 20巻 p.363 他多くの資料に書かれている。

## Mozart 引用資料

『モーツァルト全集』全15巻 海老沢敏, エリック・スミス監修 小学館・フィリップス共同出版 1990年.  
1巻. 特集「モーツァルトの肖像画」 海老沢敏 田辺秀樹 構成. <請求記号 XD11172-11183>  
10巻. 作品解説 藤本一子 <請求記号 XD17218-18227>

『ニューグローヴ世界音楽大事典』18巻 講談社. 1993-1994. <請求記号 X-001/NG/18>

『モーツァルト366日』新訂版 高橋英郎. 白水社 2002年 <請求記号 J94-931>

Exsultate, jubilate : Motette für Soprano, Orchester und Orgel KV 165 (158a) / Mozart ;  
herausgegeben von Christian Rudolf Riedel. Breitkopf & Hartel. <請求記号 H30-829>

# Gioacchino Rossini

ジョアッキーノ・ロッシーニ

1792年2月29日ペーザロ生～1868年11月13日 パシー没

イタリアの作曲家

## 17才の作品

《Cambiale di matrimonio. Overture》結婚手形 序曲

オペラ作曲年:1810年 初演:同年11月3日 サン・モイゼ歌劇場 ヴェネツィア

序曲作曲年:1809年

オペラ(結婚手形)は1810年、ロッシーニが18歳の時、サン・モイゼ劇場で初演された1幕のファルサ・コミカ。オペラ作曲は(デメトリオとポリピオ(1809))に次ぐ2作目だが、上演は(結婚手形)が先になった。序曲は1809年、ポローニャ音楽院時代に初演されたと言われ、弱冠17歳の作品。

『ニューグローヴ音楽大事典』20巻 p.363-364

『オペラ名曲百科』永竹由幸著. 上巻, p.88

ロッシーニ全集は、ロッシーニ生誕地ペーザロのロッシーニ財団から出版されているが、この作品は未出版。

## 展示楽譜

### 自筆譜のファクシミリ

オペラ《シンデレラ》(1817年1月25日ローマ初演)の部分

所蔵:イタリア Bologna, Accademia Filharmonica

New Grove Dictionary of Music and Musicians. v. 16, p. 232

## ミニチュア・スコア

オイレンブルク社 <請求記号 E6-342>

《序曲》

Renzo Bossi 編 序文

## ピアノ伴奏ヴォーカルスコア

Josef Weinberger 社<請求記号 F20-727>.

『The Art of Joan Sutherland. Volume 6. More bel canto arias』

ジョーン・サザーランド、リチャード・ボニング編

(結婚手形)よりファニーのアリア(心に輝かす歓喜を言い表したいのです)を含む。

## リブレット(オペラの台本)

歌劇《婚約手形》<請求記号 X0-363>

NHK 編『オペラ対訳選書』5 訳者下位英一 歌劇(宮廷楽士長)と一緒に発行。

### 作曲家から見た作曲家

メンデルスゾーン(1809-47)から  
ロッシーニは1836年に旅行した際、フランクフルトでメンデルスゾーンに会っている。メンデルスゾーンは自らの予想に反してロッシーニに深い感銘を受け、母と姉に書き送った。「いつ何時にも、言葉の端々からこぼれ落ちる知性と快活さと洗練。彼を天才と考へない人間は、あの弁舌を一度でも聞くべきです。即座に考へが変わるでしょう。」

『ニューグローヴ音楽大事典』20巻 p.374

## 肖像

少年から青年時代にかけてのロッシーニは、母親の優美な魅力を引き継いで、どちらかと言えば女性的美男子だったが、年をとるに従って父親に似てきた。1850年代の写真で見るロッシーニは、太ってがっしりとして、快活そうである。唇は若い頃に比べて薄くなったが、眼差しは生き生きと好奇心にあふれ、皮肉の一つも言いたそうな様子である。

Rossini / Richard Osborne. p. 2

### 1810年 18歳

#### オペラ《結婚手形》初稽古中のロッシーニ

当時の新聞の挿絵。

18歳のロッシーニはチェンバロを弾き、音楽家たちの前で(結婚手形)の初稽古です。高慢ちきなセコンダ・ドンナ[ブリーマ・ドンナに対する第2の女性, 二番目に重要な役柄]ラナーリが彼をガキ扱いするので、こう答えます。「もし私が乳離れしないガキなら、あなたの豊満な胸を豊かな栄養源にしますよ」。とある新聞から

Rossini / Arnaldo Fraccaroli. p. 48-49 間挿図。(解説共)



### 1816年頃 24歳頃

#### 青年ロッシーニの肖像 (油絵)

画家 ヴィンチェンツィオ・カムッチーニ(Vincenzo Camuccini 1771-1844)が、おそらく1816年頃描いた。

Rossini : Leben und Werk カバー

### 30歳頃?

#### 若きロッシーニ

画家 年齢不詳

これとよく似た肖像画に、画家 Kunike がウィーンにて描くと説明書きが付いている。それが正しいとすれば、これはロッシーニがウィーンを訪れた1822年(この時期ベートーヴェンにも会った)30歳頃の肖像かもしれない。

Lettere e documenti / Giachino Rossini. v. 1, p. 595

### 1823年 31歳頃

#### 1823年パリ滞在中のロッシーニ

画 Julien Boilly リトグラフ, Villain.

1823年秋パリを訪れたローシーニは、1年間パリに滞在してオペラを2曲書き下ろすと共に旧作をイタリア座で上演したい、とフランス王室に熱心にかけあった。この時期、ロッシーニはイタリア座の監督を勤めている。

Gioacchino Rossini : the reluctant hero / Alan Kendall. p. 115-117 間の挿図

## ロッシーニ 肖像写真

撮影者, 年齢不詳.

音楽室でおなじみの写真.

New Grove Dictionary of Music and Musicians.v. 16, p. 237



1809年11月4日付 17歳

## ロッシーニの手紙

写しと思われるが、形の上ではロッシーニがアッカデーミア・デ・コンコルディ(Accademia de' Concordi)に宛てた手紙。手紙の中で、アッカデーミアが自分を指揮者に任命してくれたことに感謝している。

Lettere e documenti / Gioachino Rossini., v. 1, p. 600

1864年7月28日 72歳

## ロッシーニのカリカチュア

画家, H. Mailly.

所蔵: イギリス Rainsville Archive, London

ロッシーニのカリカチュアは多数描かれている。これはその一つ。

Gioacchino Rossini : the reluctant hero / Alan Kendall. カバー裏面

### 作曲家から見た作曲家

#### ビゼー (1838-75)から

ビゼーはロッシーニの音楽を非常に尊敬しており、生涯にわたって何度が明らかに強い影響を受けた。1858年12月31日エクトール・グルエール(Hector Gruyer)に宛ててビゼーは次のように書き送っている。「フィガロの結婚」や「ウィリアム・テル」第2幕を聞く時、僕は最高の幸せを感じる。全てを忘れ去り、完全なる満足を味わう。このような恵みを受けられるとは、なんと幸運なことだろう。」

出典: Rossini / Richard Osborn. p. 255 Note.

## Rossini 引用資料・参考資料

Lettere e documenti / Gioachino Rossini ; a cura di Bruno Cagli e Sergio Ragni. Fondazione

Rossini Pesaro, c1992-<c2000>. v. <1-3>. <請求記号 C57-089(1), C86-254(2), C96-002(3)>

Rossini / Arnaldo Franc Caroli. A. Mondadori-Editore, c1941. <請求記号 C4-924>

Rossini / Richard Osborne. Oxford Univ. Press, 1986. <請求記号 J93-696>

Rossini : Leben und Werk / Richard Osborne ; Aus dem Englischen von Grete Wehmeyer. List Verlag, c1988. ( の独訳) <請求記号 C47-083>

Gioacchino Rossini : the reluctant hero / Alan Kendall. Victor Gollancz, 1992.

<請求記号 C55-526>

Rossini, the man and his music / Francis Toye. Dover, 1987. Reprint. Originally published :

Rossini, a study in tragic-comedy. W. Heinemann, 1934. <請求記号 C44-098>

Rossini / Nicholas Till. (Illustrated lives of the Great Composers) Omnibus Press, 1987. <請求記号 C52-993>

『オペラ名曲百科』永竹由幸 音楽之友社. <請求記号 X-081/OM/1>

『ニューグローヴ世界音楽大事典』20巻. 講談社. 1993-1994. <請求記号 X-001/NG/20>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. Macmillan, c1980.v.16

<請求記号 X-004/GN/16>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. 2nd ed. Macmillan, 2001. v.21.

<請求記号 X-004/N/21>

ロッシーニの名、ジョアッキーノは、Gioachino, Giachino とつづられることもある。



## Felix Mendelssohn-Bartholdy

フェリックス・メンデルスゾーン バルトルディ

1809年2月3日ハンブルク生～1847年11月4日ライプツィヒ没

ドイツの作曲家



### 17才の作品

《Ein Sommernachtstraum. Ouverture》真夏の夜の夢 序曲 (作品 21)

作曲年:1826年8月6日 初演:1827年4月29日(シュテティーン)

1826年、17歳のメンデルスゾーンはシェイクスピアの戯曲をドイツ語訳で読み、同年夏序曲「真夏の夜の夢」を作曲した。序曲以外の付随音楽(作品61)は、プロイセン国王フリードリッヒ・ヴィルヘルム四世の依頼により1842年から43年にかけて作曲された。メンデルスゾーンは作品61においてこの序曲を使用するだけでなく、11曲から成る付随音楽の幾つかに17年前に作曲した序曲の主題を用いている。

『最新名曲解説全集』4 管弦楽曲 p. 334-335

『ニューグローヴ音楽大事典』18巻 p. 272-285

### 展示楽譜

#### 自筆譜のファクシミリ

《String Quartet in E flat Major》部分

1823年、14歳の時に書いた(弦楽四重奏曲変ホ長調)の冒頭部分。完全な4楽章の四重奏曲としては最初の作品。わずか11日間で作曲した。

所蔵: イギリス British Museum

Mendelssohn / Mozelle Moshansky (The illustrated lives of the great composers). p. 25

Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd p. 116.

### メンデルスゾーン作品全集

グレッグ社 <請求記号 A7-533>

F. Mendelssohn Bartholdy : Werke : Kritisch durchgesehene Ausgabe

シリーズ2. 序曲集

J.リーツ編 ライプツィヒのブライトコップ・ウント・ヘルテル社から 1874～

77年に刊行された『メンデルスゾーン作品全集』の復刻版

### メンデルスゾーン作品全集

ブライトコップ・ウント・ヘルテル社 <請求記号 A11-450>

Leipziger Ausgabe der Werke Felix Mendelssohn Bartholdy

シリーズ5. 8巻. 舞台作品 真夏の夜の夢 : 作品 61

国際メンデルスゾーン協会校訂 ライプツィヒのブライトコップ・ウント・ヘルテル社より1960年から刊行されている『メンデルスゾーン作品全集』

ブライト Copp・ウント・ヘルテル社 <請求記号 A11-679>  
シリーズ5・舞台作品 8A巻・真夏の夜の夢:作品 61・ピアノ編曲  
ピアノ連弾編曲(全曲)とピアノ独奏編曲(Scherzo, Notturmo, Hochzeitsmarsh)  
を含む。

#### ミニチュア・スコア

オイレンブルク社 <請求記号 E4-801>  
真夏の夜の夢 序曲:作品 21  
W. Gillies Whittaker による序文が付いている。

音楽之友社 <請求記号 G15-536>  
真夏の夜の夢 : 作品 61 第 9 番 結婚行進曲  
「結婚行進曲」のピアノ編曲版

#### 貴重楽譜

〔カプリッチョ 嬰へ短調〕 作品 5 <請求記号 M6522>  
作曲:1825年7月23日 出版:1825年  
当館所蔵貴重楽譜・1825年の初版だが、印刷は後年。  
16歳、パリ旅行から戻って作曲したピアノ曲。1836年にメンデルスゾーンはロッシ  
ーニの前でこの曲を(おそらくロスチャイルド家の結婚披露宴で)演奏した。「この  
曲はD.スカルラッティの香りがする」と言われて気にしたと記録にある。  
Ferdinand Hiller 著 Mendelssohn : Letters and Recollections. 1874)

#### 作曲家から見た作曲家

ロッシーニ(1792-1868)から

メンデルスゾーンが亡くなった8年後の1855年、フェルディナント・ヒラーがマダ  
ム・プファイファーなる女性とメンデルスゾーンのイ短調交響曲4手連弾編曲を  
ロッシーニの前で演奏した。フィレンツェで聴いた八重奏曲を思いおこしながら、  
ロッシーニはこう語った。「メンデルスゾーンはどんなに小さなモチーフも、溢れ  
るような感性とすばらしい気迫で扱う術を心得ている。」

Gioacchino Rossini : the reluctant hero / Alan Kendall .p. 160

#### 肖像画

メンデルスゾーンの肖像画は、周囲を魅了し続けた彼の快活さを伝えていないと  
同時代人の多くが指摘している。メンデルスゾーンの印象は、描き手との関係や  
本人の精神状態によって、驚くほど変化した。イギリスでの音楽上の親友、ウィリ  
アム・スターンデール・ベネットはメンデルスゾーンの思い出を次のように語ってい  
る。「普段のメンデルスゾーンは地味な感じで、道行く人の目を惹くこともなかった  
が、時として天使のように輝いて見えた。」

A Portrait of Mendelssohn / Clive Brown. p. 3.

## 指揮する幼いフェリックスとそれを見守る姉ファニー

画家、年代不詳

メンデルスゾーンは4人兄弟の2番目だった。4歳年上の姉、ファニー・ツェツィリーナ(1805-1847)はすぐれた作曲家・ピアニストで、後に画家ウィルヘルム・ヘンゼルと結婚した。メンデルスゾーンは幼い頃から両親や家庭教師について、哲学、文学、音楽、絵画等幅広い教養を身に付けた。

Mendelssohn / Mozelle Moshansky (The illustrated lives of the great composers). p. 21

1822年 11月 14日 13歳

ウィルヘルム・ヘンゼル による肖像画

画家 ウィルヘルム・ヘンゼル (Wilhelm Hensel 1794-1861 メンデルスゾーンの姉ファニーと結婚) による鉛筆画。ヘンゼルは1822年11月、姉ファニーの肖像画(裸足で手に楽譜を持つ音楽の守護神チェーリアの姿)の鉛筆スケッチを描いている。この時、ヘンゼルはメンデルスゾーンを含む一家のスケッチも描いた。



所蔵:ドイツ Staatsbibliothek zu Berlin Mendelssohn-Archiv

Mendelssohn / Mozelle Moshansky (The illustrated lives of the great composers). p. 26  
Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd p. 103

1834年 25歳

ウィルヘルム・シャドウによる肖像

画家 ウィルヘルム・シャドウ (Wilhelm von Schadow 1788-1862)による鉛筆画。

所蔵: ドイツ Staatsbibliothek zu Berlin Mendelssohn-Archiv

1834年2月、シャドウはメンデルスゾーンの25歳の誕生日を祝う舞踏会をデュッセルドルフで開いた。これはその数ヶ月後に描かれた肖像。

A Portrait of Mendelssohn / Clive Brown. カバー, 及び図 17  
Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd. p. 292

1845年 36歳

エドゥアルト・マグヌスによる肖像

画家 エドゥアルト・マグヌス (Eduard Magnus 1799-1872)による、音楽室でおなじみの肖像画。

1845年10月24日、メンデルスゾーンはベルリンに到着した。数日後、彼は旧友マグヌスの前に座り、この油絵が描かれた。この肖像画は後世、広く流布することになった。サー・ジョージ・グローヴはこの肖像画を見て「たいへんよく似ている」と認めたが、「皆が何よりも彼の特徴と認めたあの生き生きとした語り口は描かれていない」と付け加えた。



所蔵:ドイツ Staatsbibliothek zu Berlin Mendelssohn-Archiv

Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd. p. 500

1824年8月13日 15歳

ドベランのカテドラル スケッチ (ペン画)

メンデルスゾーンは1822年頃からスケッチブックに絵を描き始めている。

これは、12世紀ドベランに建てられた煉瓦造りのカテドラルのスケッチ。1824年7月から8月にかけて、父とバルト海沿岸の鉱泉に保養に行った際に描いた。7月9日付けでカール・フリードリヒ・ツェルターに宛てた手紙に、メンデルスゾーンは「簡素にして荘厳なカテドラル」とその印象を書いている。またこの建物が当時絵画を習い始めたベルリンの画家 ヨハン・ゴットローブ・レーゼルのお気に入り、先生から描くように強く勧められたとも記している。絵画はメンデルスゾーンの終生の友だった。姉ファニー・ヘンゼルが亡くなった1847年には、夏中スイスで絵に没頭し、13枚の水彩画を残している。

所蔵：イギリス Bodleian Library, Oxford

A Portrait of Mendelssohn / Clive Brown 図2(解説共)

1830年5月20日付

21歳の手紙

特定はされていないが、おそらく出版者 H.A.Probst に宛てた手紙。交響曲第1番のピアノ連弾編曲のドイツでの出版の可能性について触れ、すでに出版されていたイギリス版の訂正を指示している。

Famous Composers and Their Works, ed. John K. Paine and Leo R. Lewis v. 2

A Portrait of Mendelssohn / Clive Brown. 図21(解説共)

作曲家から見た作曲家

ビゼー(1838-75)から

ローマ滞在中のビゼーは良い音楽を聞く機会がないことに苛立っていた。ビゼーは1850年代におけるヴェルディの驚くべき先進性の意義を捉えることができず、むしろロッシニ、モーツァルト、メンデルスゾーンに強く惹かれるものを感じていた。

New Grove Dictionary of Music and Musicians. 2<sup>nd</sup> ed. p. 843



**Mendelssohn 引用資料・参考資料**

A Portrait of Mendelssohn / Clive Brown. Yale Univ. Press, c2003. <請求記号 J98-754>

Mendelssohn : a Life in Music / R. Larry Todd. Oxford Univ. Press, 2003.

<請求記号 J100-920>

Mendelssohn / Mozelle Moshansky (The illustrated lives of the great composers). Omnibus Press, 1982. <請求記号 C52-989>

『メンデルスゾーンのスコットランド交響曲』星野宏美. 音楽之友社. 2003. <請求記号 J98-047>

『ニューグローヴ世界音楽大事典』18巻. 別巻2巻. 講談社. 1993-1994. <請求記号 X-001/NG/18>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. Macmillan, c1980. v.12.

<請求記号 X-001/GN/12>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. 2nd ed. Macmillan, 2001. v.16.

<請求記号 X-001/N/16>

# Georges Bizet

ジョルジュ・ビゼー

1838年10月25日パリ生～1875年6月3日パリ近郊ブーヅヴァル没

フランスの作曲家

## 17才の作品

《Symphonies C major》交響曲 八長調

作曲年:1855年 初演 1935年バーゼル

1855年の秋、17歳になったばかりのビゼーは交響曲八長調を作曲した。この作品は現在ではよく知られているが、その草稿は80年近くの間パリ音楽院の図書館に埋もれていた。1935年2月26日スイスのバーゼルでワインガルトナー指揮のもとで初めて演奏された。

『ニューグローヴ音楽大事典』14巻 p. 147-158

『最新名曲解説全集』2 交響曲 p. 93-97

## 展示楽譜

自筆譜のファクシミリ

《交響曲八長調》

1855 作曲の冒頭部分

所蔵:フランス Bibliotheque Nationale

New Grove Dictionary of Music and Musicians. v.2. p. 750.

ビゼーの自筆譜の多くは紛失し、残された自筆譜の多くも今だ出版されていない。校訂版が存在するのは、初期のピアノ曲、「アルルの女」、および「子供の遊び」だけである。

ミニチュア・スコア

オイレンブルク社<請求記号 E1-497>

Felix Aprahamian 序文

## 貴重楽譜

オペラ《ジャミレー》スコア <請求記号 M3565>

1871年作曲 初演 1872年5月22日 オペラ・コミック座 台本 ルイ・ガレ

ピアノ曲(子供の遊び)と同じ1871年に作曲された。このオペラは11回公演された後、フランスでは1938年のビゼー生誕100年際まで復活上演されることはなかった。出版社 Choudens Fils から、おそらく1889年～1991年の間に出版された楽譜。後からドイツ語で書込みがされている。

『ニューグローヴ音楽大事典』14巻 p.154

## 作曲家から見た作曲家

ロッシーニ(1792-1868)から

ロッシーニは1857年12月15日、19歳の青年ビゼーのためにフェリーチ・ロマーニ(在ローマ)に宛てて親切な紹介状を書いている。「パリ王立音楽院の作曲コンクールで第一等賞を受賞したシニョール・ビゼーがこの書状を持参します。彼は実践的な音楽修業にさらなる磨きをかけるため、留学します。学業優秀で、当地におけるオペレッタでも非常な成功を収めています。彼はすぐれたピアニストです。すばらしい人柄で、貴殿よりご配慮いただくに相応しい人物と思われます。ビゼー氏を推薦します。なにとぞ氏をロンツイ兄弟にご推薦いただくよう心より願います...」

Rossini: the reluctant hero / Alan Kendall. p. 190

.Rossini: the man and his music/ Francis Toyle. p. 215



### 肖像画

1857年 ヴィツラ・メディチにて 19歳

セリエによるビゼーの肖像画

画家シャルル・セリエ(Charles Sellier 1830-1882)(1857年絵画部門ローマ賞受賞者)

1857年、ビゼーはローマ賞を受賞した。同年12月21日、4人の奨学生仲間とともにローマに旅立つ。ビゼーはフランス政府が同地ヴィツラ・メディチにもつアカデミー・ドゥ・フランスの寄宿留学生として、3年間ローマに滞在した。ニューグローヴ音楽大事典に、この絵は未完に終わったとある。

Bizet / Jean Roy. p.[16]

1860年 7月 21歳

ジャコモッティによる肖像画

画家フェリックス・アンリ・ジャコモッティ(Felix Henri Giacomotti 1828-1909)

イタリアとの別れとなった出発を目前に控えた7月には、フェリックス・ジャコモッティがビゼーの肖像画を描いている。

Georges Bizet: 1838-1875 / Remy Stricker. 表紙 ニューグローヴ音楽大事典 14巻 p. 149

1860年 22歳間近?

ローマから帰国したビゼー

画家不詳 1860年7月末、ビゼーはローマを離れた。当初は気心が知れたエルネスト・ギロー(1859年ローマ賞受賞者)と共にイタリアを旅行し12月頃パリに戻る予定だったが、9月5日到着したヴェネツィアで、母親が重病で入院しているという知らせが待ち受けていたため、ギローと別れてパリに向かった。

Bizet / Jean Roy. Edition du Seuil, c1983. p.[43]

1875年 37歳

肖像写真

撮影者 エティエンヌ・カルジャ (Etienne Carjat 1828-1906)は、ボードレルのポートレート撮影で知られる。ビゼー死去(1875年6月3日)の数ヶ月前に撮影。

Bizet / Jean Roy. Edition du Seuil, c1983. p.[155]



1872年頃

《アルルの女》のリレットにメモした主題

「アルルの女」リレットの余白にビゼーが書き記した主題。

Bizet / Jean Roy. Edition du Seuil, c1983.p. [106]

### Bizet 引用資料・参考資料

『ニューグローヴ世界音楽大事典』14巻 1993-1994 講談社.<請求記号 X-001/NG/14>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. Macmillan,c1980. v.2.<請求記号 X-001/GN/2>

New Grove Dictionary of Music and Musicians. 2nd ed. Macmillan, 2001.v.3.

<請求記号 X-001/N/3>

Bizet / Jean Roy. Edition du Seuil, c1983. .<請求記号 C37-464>

Georges Bizet : 1838-1875 / Remy Stricker. Gallimard, 1999. .<請求記号 J90-630>

Bizet and His World / Mina Curtiss. Secker & Warbunrg, 1959. .<請求記号 C3-668>

図書館展示 2004.4.5-28

モーツァルト・ロッシーニ・メンデルスゾーン・ビゼー  
大作曲家の十代



国立音楽大学附属図書館 2004.4.12  
編集 広報委員会(染谷周子・高田涼子)